

世界の社会主义偉業と反帝闘争に積み上げた金日成主席の業績

セルビア・チュチェ思想研究全国委員会副委員長
マリアン・クビク

資本主義のもっとも高い段階である帝国主義は人民の福祉と繁栄にもっとも大きな脅威となっています。帝国主義国家はほぼ1世紀以上も全世界の勤労人民を搾取して来ています。20世紀の初頭、ブルジョアジーに反対する被抑圧人民の闘争が激しく展開されました。大独占に反対する闘争が資本主義的経済制度にもとづいた利潤に反対する闘争、社会主义のための闘争を意味したことにより、こうした闘争は最初から深刻な反資本主義的な性格をおびました。

朝鮮人民は帝国主義に反対する闘争で大きな役割をしました。数百万の勇敢な朝鮮人民が第2次世界大戦の時期に日本の占領に反対して、朝鮮戦争の時期にはアメリカとその同盟国に反対する闘争で自己の生命をささげました。今日までも朝鮮民主主義人民共和国は、西側の帝国主義者の圧力に反対して闘っています。

朝鮮人民は過酷な制裁と封鎖の中でもチュチェ思想の原理を具現して社会主义を建設し発展させています。彼らの闘争は全世界のすべての勤労者たちにとって鼓舞と、モデルとなっており、自由と社会主义のために闘おうとする彼らの意志をさらに強いものにしてくれます。

このような成果は金日成主席の賢明な指導を離れて考えられません。

金日成主席はもっとも過酷な時代に朝鮮人民を導いた輝かしい太陽でありました。

金日成主席は社会主义建設を指導しました。

金日成主席は朝鮮民族の慈父であり解放者であります。

金日成主席の家庭は朝鮮半島の解放のために戦った長い伝統をもっている家庭です。

金日成主席の父母は1910年代と1920年代に日本の占領に反対する闘争を積極的にくり広げたし、子供たちが一つの革命思想をもつように育てました。

14歳の年である1926年10月17日、金日成主席は打倒帝国主義同盟を結成しました。打倒帝国主義同盟は朝鮮で最初になるマルクス・レーニン主義青年組織であり、同盟の結成は日本帝国主義に反対する金日成主席の闘争のスタートとなりました。打倒帝国主義同盟はチュチェ思想の創始とともに朝鮮労働党の創建のための道を開拓しました。

1930年代に金日成主席は満州で日本軍に反対する朝鮮人民と中国人民の武装

闘争を組織しました。金日成主席の卓越した指導は占領軍に甚大な難関をもたらし、日本帝国主義を大いに弱化させました。この闘争は中国と朝鮮人民の解放だけでなく、地域と世界の反帝力量の全般的勝利に貢献しました。この闘争は中国と朝鮮の兄弟的人民間の国際的連帯性の生きた模範となります。

金日成主席の闘争は1940年代にも続きました。

金日成主席の息子である金正日総書記は朝鮮抗争運動と朝鮮革命の中心地である白頭山で誕生しました。

金日成主席は抗日戦争を勝利へと導いて朝鮮に凱旋しました。金日成主席は日本の植民地支配の残滓を一掃し、朝鮮人民を祖国の統一独立と社会主义建設へ指導する朝鮮労働党を創立しました。朝鮮では朝鮮人民軍の創建について1948年9月9日、朝鮮民主主義人民共和国が創建されました。共和国の創建は金日成主席と主席の思想の偉大な勝利であると同時にこの国のすべての労働者、農民、インテリの勝利がありました。

朝鮮の統一と自由にたいする世紀的な念願は、今一つの帝国主義国であるアメリカによって阻止されました。1950年にアメリカは卑劣にも朝鮮民主主義人民共和国を侵攻しました。アメリカの根本目的は朝鮮をアメリカ式に植民地化するところにありました。米軍は外部勢力の占領に再び対抗して出た朝鮮人民を相手に多くの大量殺戮犯罪を働きました。

金日成主席は朝鮮人民軍と朝鮮人民を再び勝利へと指導しました。その勝利は金日成主席の天才的才能と朝鮮の労働者、農民、軍人の勇敢さと決断なしには勝ち取れないものであります。

現在も朝鮮半島は二分されており、国の南半部が依然としてアメリカの占領の下で呻吟しています。今も南朝鮮に駐屯している米軍は朝鮮民主主義人民共和国に大きな脅威を与えています。

しかし朝鮮人民は金日成主席と金正日総書記、金正恩総書記の指導の下に自力で地上楽園を建設しました。

社会主义の灯台であるチュチェ思想の思想的力があるがゆえに、金日成主席が示した平和的統一にたいする朝鮮人民の希望は絶対に消え失せないでしょう。

人類の輝かしい太陽である金日成主席のすべての業績を数言で言及するわけにはいかないと思います。世界のすべてのマルクス・レーニン主義者は主席の尊名を限りない尊敬と敬意の念を込めて呼んでいます。

プロレタリア闘争と社会主义建設のモデルを創造した方はほかならぬ金日成主席であります。

世界のすべての人民と朝鮮人民は金日成主席の遺産を代を継いで保存するであろうし、またそうすべきでしょう。